
専門学校浜松デザインカレッジ ディプロマポリシー
(卒業認定・専門士授与の方針)

本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、学校教育法に従い、デザイン、ファッション、ビューティーの業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成すること」が教育目標であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有していることとする。

- 専門分野の職業人としての基本的技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- 職業人としての基礎力、判断力、キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。
- 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

グラフィックデザイン科 ディプロマポリシー

グラフィックデザインとはもの事の本質を理解、それをビジュアルアイデアという付加価値をつけて問題解決を行うコミュニケーション手法のひとつである。さらにデザインそのものが新しいサービスや商品を生み出し、産業を活性化させるツールとして重要視されている。そして、柔軟で的確な理解力、新鮮な発想力、多様な切り口と表現力、そして確かな技術と豊富な知識に裏付けされたデザイナーが必要となっている。従来の印刷物の枠にとらわれず、コンピュータ上で表現される、インタラクティブデザイン、ウェブデザインなど、「デザイン」を必要とする活躍の場はますます拡大している。本学科では、デザイナーに必要となる、視覚を中心とした効果的表現の知識と技術、よりの確かな情報伝達を生み出すための企画力、プレゼンテーション力を学習し身につけることを卒業の条件とする。

■社会人としての人間形成

デザインとは、はまさにビジネスであり、基本的な社会人としての人間形成なくしてその役割は務まらない。挨拶・掃除からはじまり、コミュニケーション能力、ビジネスマナーなど、ビジネスマンとしての姿勢を身に付け、ビジネス文書作成やプレゼンテーションなど、社会で活躍できる、「人間力」を身につけることができる。

■幅広い専門的な表現技術を身につける

様々なデザインニーズに対応できる、幅広く確実な表現技術を身につけるため、イラストレーション、キャラクターデザイン、写真、ロゴ・マーク、コピーなどの素材制作から、DTP、映像編集、Web制作などを、実習授業を中心に学習し、一通りのデザイン分野に必要な技術を身につけることができる。

■企画・提案力を養う

情報伝達したい内容を的確に処理し、グラフィックデザインとして表現するため、地元企業や公共機関からの依頼を受け、実践的内容を授業に取り込み、計画・企画立案～制作～プレゼンテーションができるようになる。

■社会から認められる作品づくり

デザイン業界への就職には、自分の作品ストックを持参し、持っている技術や経験、個性をアピールすることが多い。そのためすべての授業において就職活動を意識した、完成度の高い作品づくりに取り組み、社会の評価を得ることができる。

■積極的学習姿勢の育成

デザイン業界は時代とともに日々進化しており、社会に出てからも積極的に学んでいく姿勢が必要である。本学科では物事からなにかを学び続ける姿勢を在学中に身につけるため、コンテストの参加などを通じて自主的な学習姿勢を身につけることができる。

ファッション流通科 ディプロマポリシー

本学科ではファッション系販売に必要な知識や理論、テクニックや感性を、実践を通して学習し、そこからファッションビジネスの総理解と高度な技術を身に付け、将来ファッション業界の第一線で活躍できる人材を育成する。

今日のファッション業界は「ファッション＝衣服・流行」といった捉え方だけではなく、衣食住やヒト・モノ・コトなど、文化的生活のすべてに関するアイデンティティの表現であるという考え方が根付き、多様な感性が求められる。本学科では、幅広い視野を持ち、それを具体化し、表現できる人材の育成を教育目標としている。

浜松地域においてはショッピングセンター型の量販店が多く、また従来の百貨店や専門店、インターネットなどによる無店舗小売業など、現在では様々な形態の流通チャネルが入り乱れており、社会動向を把握した分析力、企画力、感性、実践的経営能力など、お客様の多様なニーズに答える能力がますます求められる。ファストファッションが台頭し、ものを持つ価値や喜びが薄れがちな時代に、ファッションをとおして、強く個人の生き方を示すことのできる、表現力のある人材を育成する。

■社会人基礎力

何を基準として美しいのか、何が魅力的なのか、が見えづらい時代ゆえ物事の本質を深く追求する。 商業的な捉え方と芸術的な捉え方の双方を理解し、自身のアイデンティティと心の成長を目指す。また、挨拶・掃除からはじまり、コミュニケーション能力、ビジネスマナーなど、社会人としての姿勢を身に付け、ビジネス文書作成やプレゼンテーションなど、社会で活躍できる、「人間力」を備えた「人材」として育成する。

■コミュニケーション力

コミュニケーション能力とは会話をする技術ではなく、まず自己を理解し、次に相手を尊重することで生まれるやさしさと、自分を理解し的確に発信できる“しなやかさ”だと考える。

異文化を通じ幅広い価値観と視野をもち、受け入れ理解することのできる器を育て、表情・立ち居振る舞い・パフォーマンス能力を踏まえた伝える能力、技術を身につける。

■基礎知識、専門分野の理解と向上

ファッション分野の知識の習得、向上のために、多くの検定試験や資格試験の対策授業を通して学習し、資格取得を目指す。 習得した学習内容は実践で活かし、さらにスキルとして確実なものに育て上げる。

■社会への積極参加

ファッションとは、生活文化提案ビジネスである。生活者とのコミュニケーション、共鳴することの重要性を感じ、情報産業としてのファッションビジネスを学ぶために、地域の各種イベント、企業研修や校外研修などを積極的に取り込む。

メイク・ブライダル科 ディプロマポリシー

流行や、皮膚理論・薬事成分などが常に変化する美容業界では、基本の知識を持ちながらも常に自身をアップデートし、真偽を精査できる人物像が求められる。昨今では、顧客の多様化により特別な体験や、よりパーソナルな提案を求められる傾向があり、プロフェッショナルとしての高い専門性とマルチに対応できる柔軟性や人間力が必要となる。専門分野の基礎力から、時代や現場に合わせた活用の仕方までを身に付ける事で、化粧品業界・ブライダル業界・ヘアメイク業界などで長く活躍できるスキルを身に付ける。メイク・ブライダル科では、【ビューティ】【ブライダル】【人間力】の基礎習得を徹底化し、自ら課題を見つけ、行動し活躍できる応用力を備えたスペシャリストの育成を目標とする。

本科では、【ヘアメイク・ブライダル・ビューティの専門技術知識】・【顧客対応のマナー・カウンセリング技術】を卒業条件としている。

●ヘアメイク専門技術知識

モデルの骨格や、素材を分析できる。

仕上がりイメージに合わせる為のスキンケアや、ヘア仕込みを行える。

モデルの素材、仕上がりイメージにあったヘアスタイルやメイクを実現する為の道具、アイテムをチョイスしたのち、正しいイメージ効果がでる技術を選択しヘアメイクで表現できる。

現場での作業をイメージし、時間内で完成させる感覚を身に付けている。

ヘアメイクの効果や狙いをお客様に説明が出来る。

●ブライダル専門技術知識

ウエディング業界全般に必要な、業界知識やマナー、しきたりなどを身に付けている。

ブライダルでの、ヘアメイク（新日本髪・かつら・水化粧など）の違いを理解し施せる。

花嫁衣裳・袴・留め袖・振袖などの和装やウエディングドレス・タキシードなど洋装の着付け方法を習得し、モデルのイメージや素材に合った提案が出来る。

挙式から披露宴までを、企画立案し、全ての作業を学生のみで行う模擬挙式が出来る。

●マナー・カウンセリング

美容技術者・ブライダル関係者に相応しいマナー立ち振る舞い、心遣いを身に付ける。

技術を身に付けるだけでなく、いかにお客さまへ提案し、ご満足いただけるかの顧客満足意識が身につけている。ルールを守りながらも、自分で考え判断行動できる積極性を身に付けようとしている。

各分野での、お出迎えからお見送りまで、カウンセリングを含む接客が出来る。

●専門性の高い技術力習得のための考え方

お客様やモデルの素材を分析する「分析力」、その方になりたいイメージを正しく理解する「理解力」、それぞれの骨格やバランス、素材に合わせて組み立てる「応用力」、そして実現させる「技術力」を身に付ける。その後、お客様に簡潔に説明・プロとしての提案が出来る。この一連の流れを理解、実施できる。